



夢は見るもの 叶うもの 人の3倍励むもの

# 秀麗の丘

学校だより NO.25  
令和5年3月15日  
発行人 八木沼孝夫

**教育目標** 新しい時代を担う豊かな心と知性を身につけた実践力のある生徒の育成

**知性**：自ら学び考える生徒 **友愛**：心豊かな生徒 **健康**：健康で実践力のある生徒

## 厳粛かつ感動的な 第76回卒業証書授与式

3月13日(月)10時より、須賀川市中央体育館において令和4年度第76回卒業証書授与式を行いました。本校体育館が今だ完成しておらず、今年も中央体育館での開催となってしまいましたが、3年ぶりに全校生徒が一堂に会しての卒業式となりました。また須賀川市長 橋本克也 様をはじめ多くの来賓の方々にもご臨席いただき実施することができました。

式では、まず校長から一人一人に卒業証書が授与いたしました。担任の呼名に対して大きな返事で、胸を張って受け取る姿は実に立派でした。また校長式辞では、「コロナ禍や地震による体育館が使えない困難をみんなで協力しあって乗り越えてきた力を、自分の将来の夢や希望に近づくために発揮してほしい。『夢は見るもの 叶うもの 人の3倍励むもの』を思い出してほしい」とはなむけの言葉を述べさせていただきました。その後、在校生代表の送辞を●●●●さんが、卒業生代表の答辞を●●●●さんが行いましたが、2人とも自分の想いをしっかり伝える感動的な送辞・答辞でした。式歌では、在校生が卒業生に感謝の気持ちを込めて「明日の空へ」を、卒業生が「正解」を涙をこらえながら歌う姿が印象的でした。

このように、今年の卒業式は、体育館が使えない困難を乗り越えて、厳粛な中にも感動的な卒業式となりました。卒業された73名の皆さんの今後の活躍を期待しております。



本校伝統の校旗先導

卒業生入場

一人一人に卒業証書を授与

校長式辞



橋本市長の祝辞

記念品を受ける●●●●さん

記念品を受ける●●●●さん

●●●●さんの送辞



●●●●さんの答辞

涙を流す卒業生

「明日の空へ」を歌う在校生

伴奏の●●●●さん



「正解」を歌う男子卒業生

「正解」を歌う女子卒業生

卒業生退場

雨のため体育館内での門送

## 歴史と伝統のある同窓会に入会しました

3月8日(水)4校時、中央体育館において同窓会入会式を行いました。お忙しい中、同窓会長の内藤祥一様にお越しいただき、お祝いの言葉や励ましの言葉を頂きました。その後、新入会員を代表して●●●●●●

●●●●●●さんが「誓いの言葉」を述べ、●●●●●●さんが記念品を受け取りました。

須賀川一中の卒業生には、東京オリンピック銅メダリストの円谷幸吉さんをはじめ、各界で活躍している大先輩がたくさんいらっしゃいますが、3年生の皆さんは、須賀川一中の卒業生としての自覚を深め、社会で活躍している先輩方のような人間になりたいと意識を高めたようでした。



誓いの言葉を読みあげる●●●●●●さん



記念品を受ける●●●●●●さん

## 「夢は見るもの 叶うもの 人の3倍励むもの」3年生への校長講話

卒業を間近に控えた3月9日(木)に、校長による授業を3年の各学級で行いました。題して「第一中学校を巣立っていく君たちへ」という校長講話です。

まず、コロナ禍や体育館が使えないことでいろいろと苦労があった3年生の労をねぎらうとともに、最上級生として第一中学校をリードしてくれたことへの感謝の気持ちを伝えさせていただきました。

また、校長の小学校時代から教師になるまでの話をしながら、いつも話していた「夢は見るもの 叶うもの 人の3倍励むもの」の具体的な話をさせていただきました。



3年生へ話をする校長

## 東日本大震災から12年を迎えました

東日本大震災から12年を迎えました。現在の中学生は当時1歳から3歳ということで、ほとんど当時の記憶がないと思われます。大震災から時間が経過することによって、当時の厳しい状況が風化しつつあります。しかし、その後も各地で大きな地震が発生していたり、地震以外でもさまざま災害が発生したりしています。万が一に備えて防災について考えておくことは大切なことです。

そこで、3月8日(水)卒業式予行を行う前に、東日本大震災の追悼や防災について考える集会を行いました。初めに、校長が東日本大震災について話をした後、震災で犠牲になった方々の追悼の想いを込めて、全校生・教職員で黙とうを捧げました。

また、本校の図書室に震災コーナーを設けて、当時の新聞や雑誌などを陳列してみました。

東日本大震災のことを理解するとともに、災害について考える機会になればと思います。



校長の話



黙とうする生徒



図書室の震災コーナー

## 絵画「秀麗の丘の樺」を寄贈していただきました

先日、市内南町在住の●●●●●●様から、本校のシンボルツリーになっている秀麗の丘の三本のケヤキの木を描いた絵画を寄贈していただきました。秀麗の丘にどっしりと根をはって、長年一中生を見守っている3本のケヤキの力強さが描かれているすばらしい作品です。

●●様は元中学校教員で、本校校長も大変お世話になりました。またお子さんやお孫さんも本校の卒業生という縁で寄贈していただく運びとなりました。

寄贈いただいた絵画は校長室前に設置しましたが、設置には、現在校舎の改修工事を行っていただいている橋本組さんの本校卒業生の社員の方にご協力いただきました。

絵画を寄贈していただいた●●様、絵画の設置にご協力いただいた本校卒業生の方に感謝申し上げます。ありがとうございました。



寄贈していただいた「秀麗の丘の樺」



卒業生に設置の協力をしていただきました

12年前の東日本大震災当時、私はある中学校の教頭でした。卒業式が終わり一段落していた14:46、未曾有の大地震が発生しその対応に追われて帰宅したのは深夜2時ごろでした。その後も余震が相次ぎ、原発事故も発生して混乱する中、学校再開や教育活動をどうするかなどその対応に苦慮しました。保護者の方々も小さなわが子の安全や将来を案じながらご苦労されたと思います。しかし12年が経過して当時のことを忘れかけていました。最近、アニメ映画『すずめの戸締り』やテレビ番組『南海トラフ巨大地震』を観ましたが、当時の記憶がよみがえり胸を痛めるとともに、忘れかけていたことを反省しました。地震をはじめ災害は必ず発生します。万が一の時にどう行動できるか常に考えてほしいと思います。